

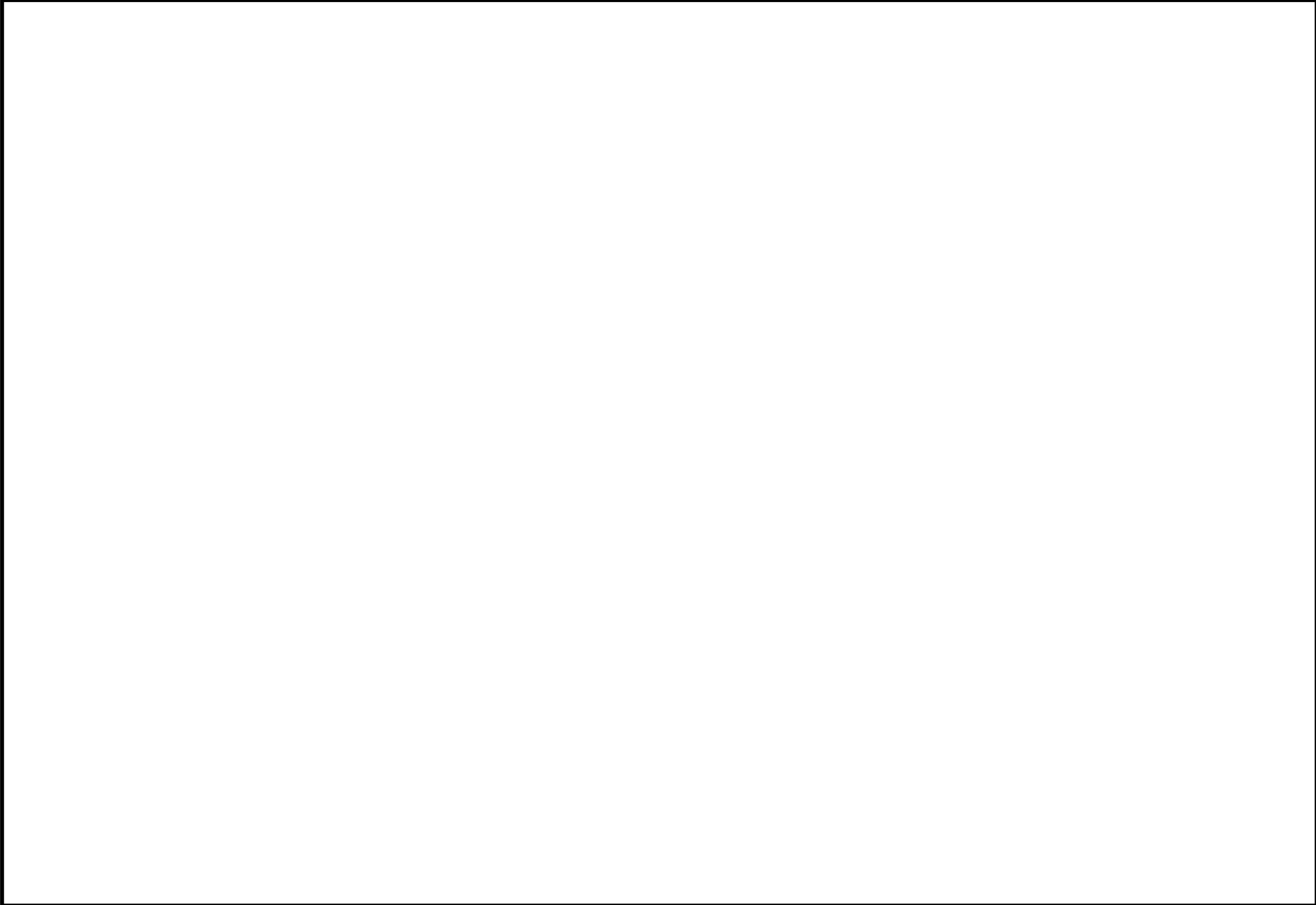
本資料のうち、枠囲みの内容は機密事項に属しますので公開できません。

柏崎刈羽原子力発電所 6 号及び 7 号炉

有効性評価における重大事故対応時の手順について

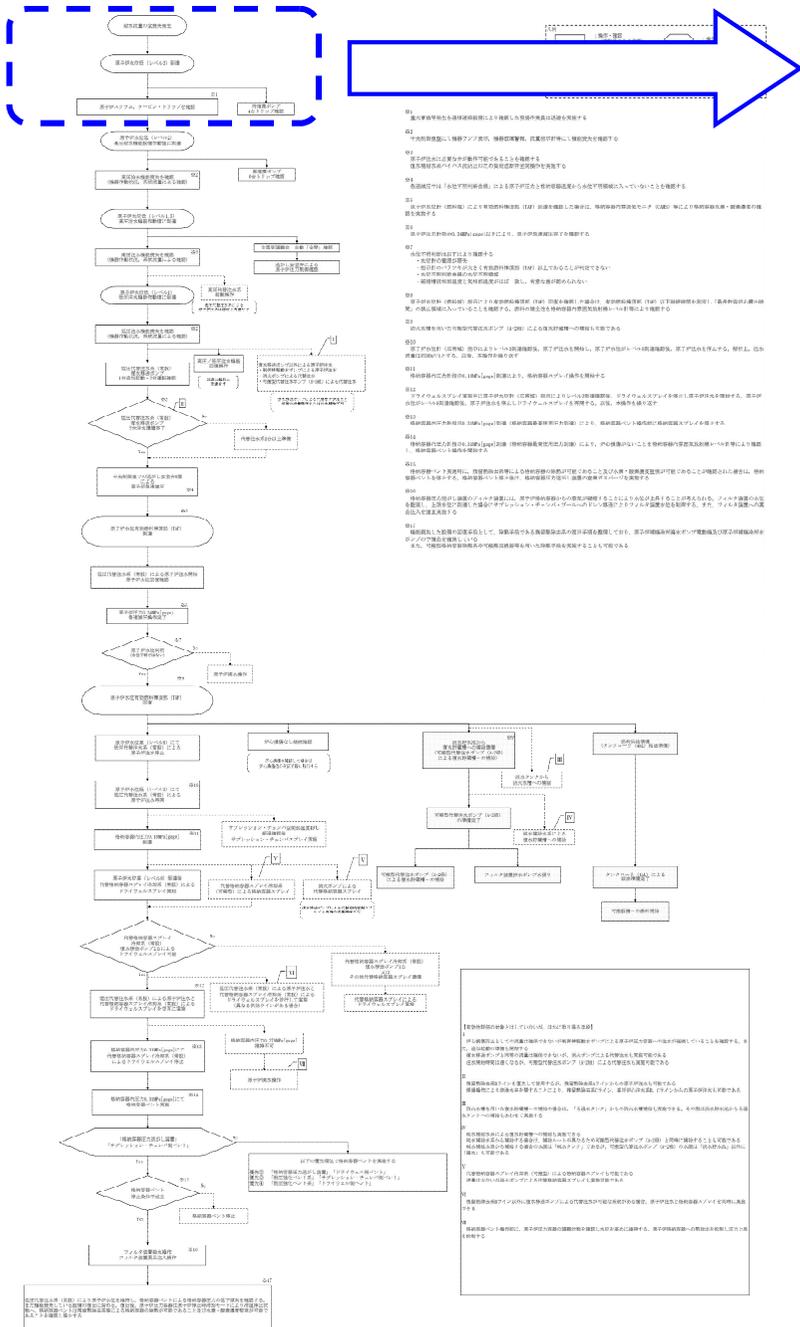
目 次

1. 運転中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故
 - 1.1 高圧・低圧注水機能喪失
 - 1.2 高圧注水・減圧機能喪失
 - 1.3 全交流動力電源喪失
 - 1.3.1 全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG 喪失）
 - 1.3.2 全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG 喪失）+RCIC 失敗
 - 1.3.3 全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG 喪失）+直流電源喪失
 - 1.3.4 全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG 喪失）+SRV 再閉失敗
 - 1.4 崩壊熱除去機能喪失
 - 1.4.1 取水機能が喪失した場合
 - 1.4.2 残留熱除去系が故障した場合
 - 1.5 原子炉停止機能喪失
 - 1.6 LOCA 時注水機能喪失
 - 1.7 格納容器バイパス（インターフェイスシステム LOCA）
2. 運転中の原子炉における重大事故
 - 2.1 雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）
 - 2.1.1 代替循環冷却系を使用する場合
 - 2.1.2 代替循環冷却系を使用しない場合
 - 2.2 高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱
 - 2.3 原子炉圧力容器外の溶融燃料-冷却材相互作用
 - 2.4 水素燃焼
 - 2.5 溶融炉心・コンクリート相互作用
3. 使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故
 - 3.1 想定事故 1
 - 3.2 想定事故 2
4. 運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故
 - 4.1 崩壊熱除去機能喪失
 - 4.2 全交流動力電源喪失
 - 4.3 原子炉冷却材の流出
 - 4.4 反応度の誤投入 ※重大事故等の対策は、全て自動で作動するため、手順による対応は不要。



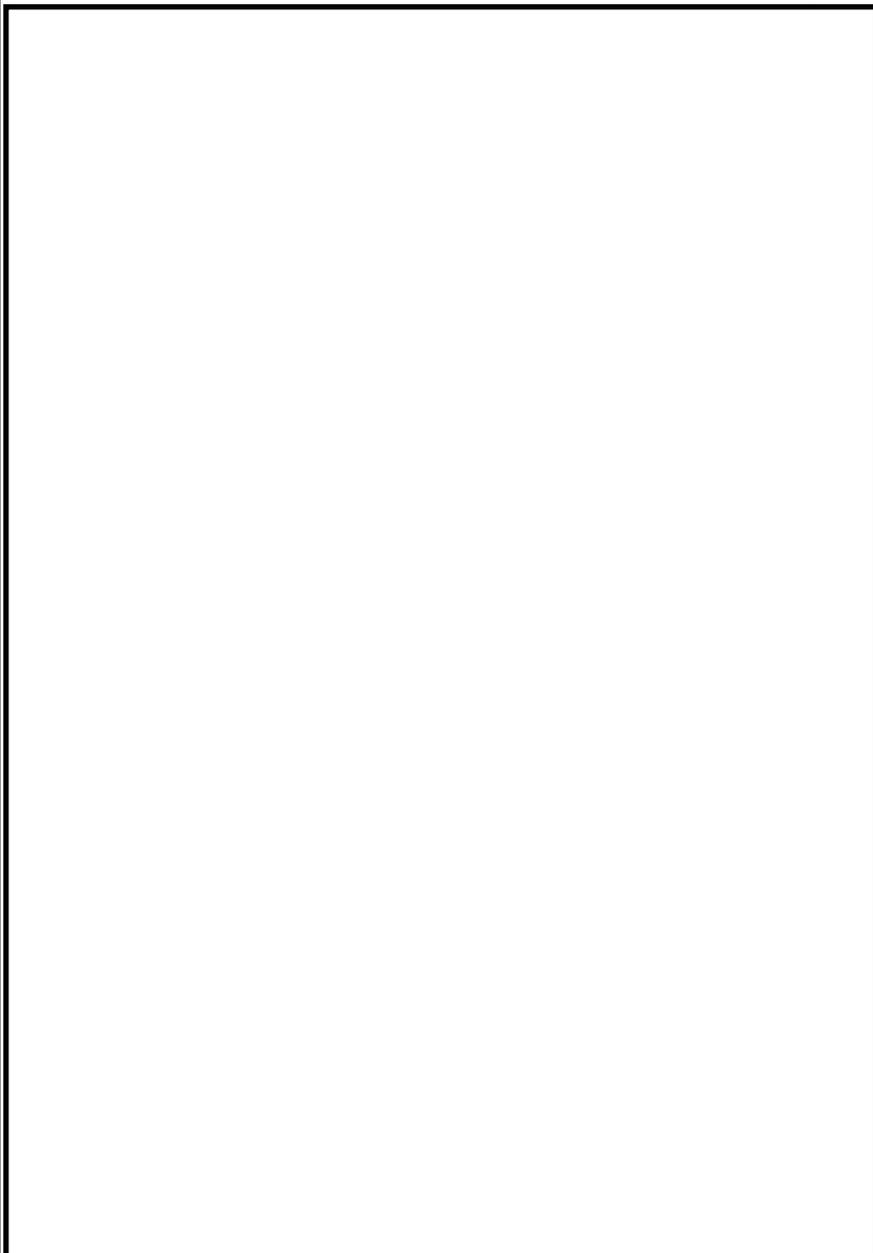
詳細手順説明

解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (事象ベース) 「AOP」 「給水全喪失」

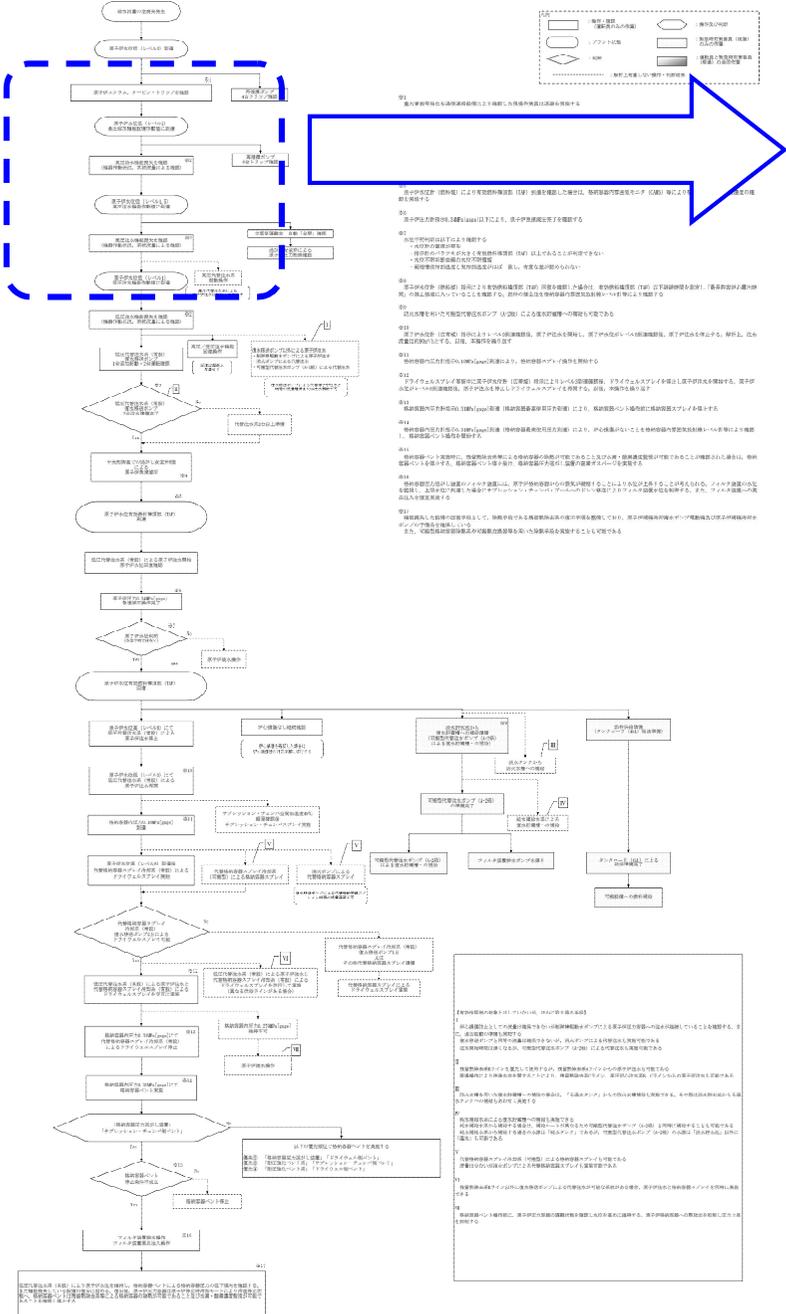


操作補足事項

「給水全喪失」事故発生
AOP「給水全喪失」により対応する。
原子炉水位低信号により原子炉スクラムし EOP「スクラム」へ移行して対応する。
その他の必要な操作で EOPに記載のない操作は、引き続き AOP「給水全喪失」で対応する。

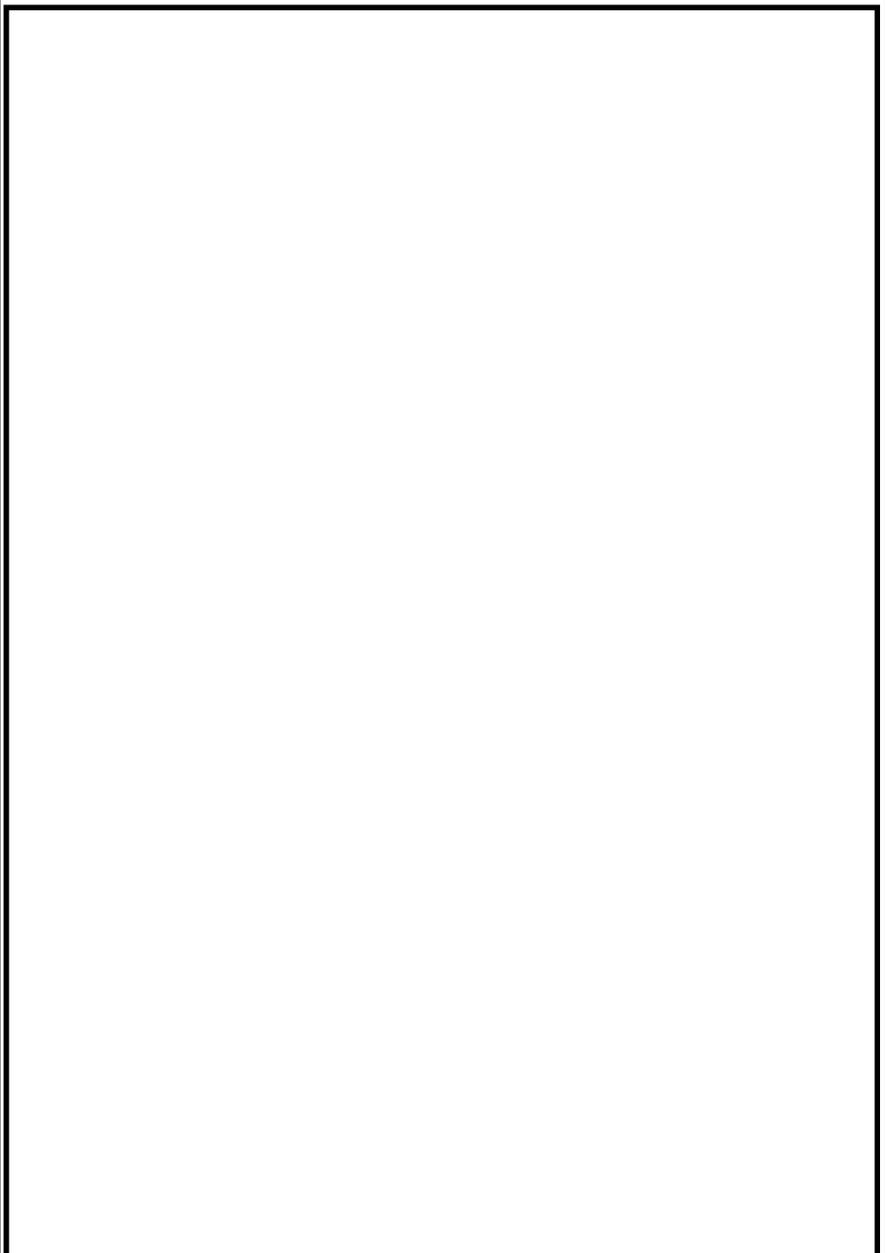
AM 設備別操作手順書

解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「EOP」 原子炉制御 「スクラム」



操作補足事項

最初に「原子炉出力」制御にて発電用原子炉の停止状態を確認する。続いて「原子炉水位」「原子炉圧力」「タービン・電源」の制御を並行して行う。

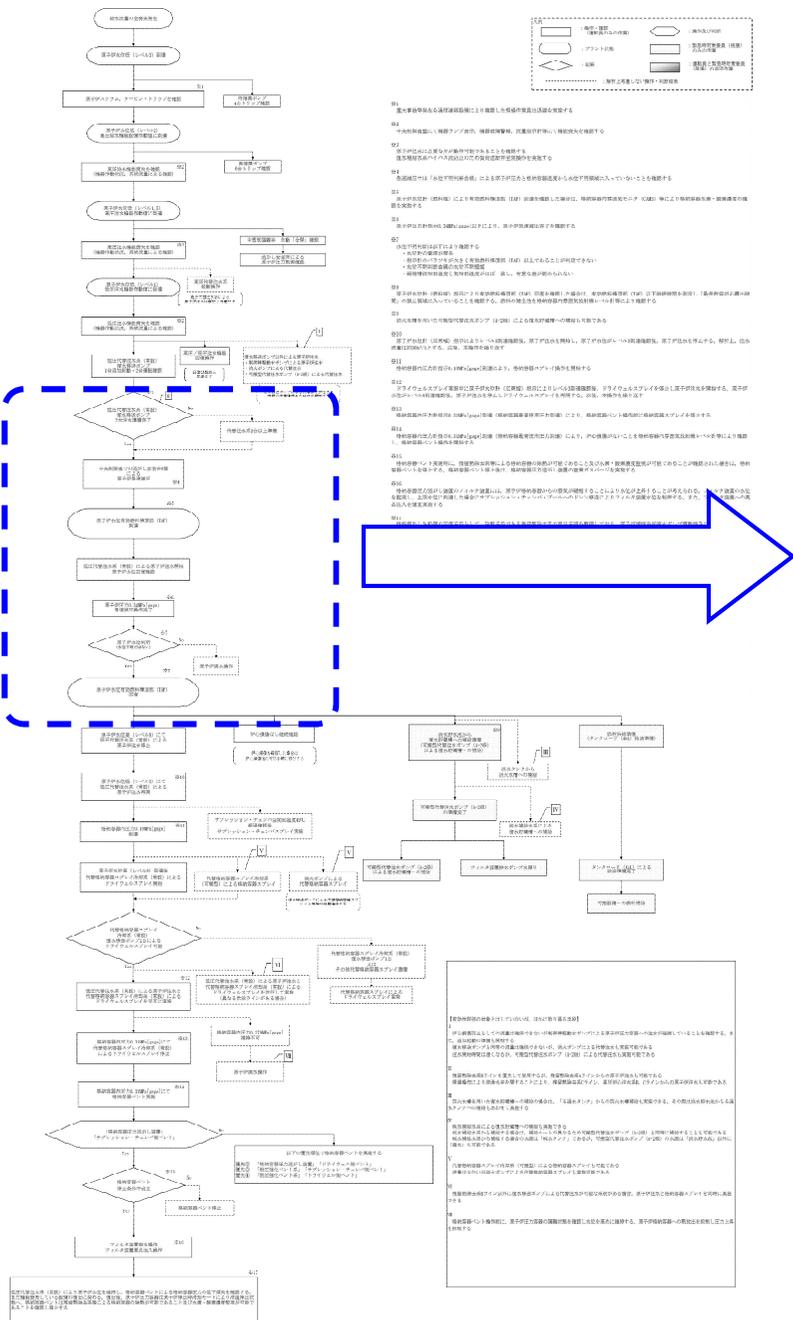
また、「一次格納容器制御導入」を継続監視する。

全給水喪失していることから、原子炉水位レベル2で原子炉隔離時冷却系が自動起動し、レベル1.5で高圧炉心注水系が自動起動するが、高圧注水機能喪失により、原子炉圧力容器への注水が不可となる。

原子炉水位をレベル3～レベル8に維持できないことから「水位確保」へ移行する。

AM 設備別操作手順書

解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「EOP」 不測事態「急速減圧」



【緊急時運転開始発生】

1. 緊急時運転開始発生 (1-15) 発生

2. 緊急時運転開始発生 (1-16) 発生

3. 緊急時運転開始発生 (1-17) 発生

4. 緊急時運転開始発生 (1-18) 発生

5. 緊急時運転開始発生 (1-19) 発生

6. 緊急時運転開始発生 (1-20) 発生

7. 緊急時運転開始発生 (1-21) 発生

8. 緊急時運転開始発生 (1-22) 発生

9. 緊急時運転開始発生 (1-23) 発生

10. 緊急時運転開始発生 (1-24) 発生

11. 緊急時運転開始発生 (1-25) 発生

12. 緊急時運転開始発生 (1-26) 発生

13. 緊急時運転開始発生 (1-27) 発生

14. 緊急時運転開始発生 (1-28) 発生

15. 緊急時運転開始発生 (1-29) 発生

16. 緊急時運転開始発生 (1-30) 発生

17. 緊急時運転開始発生 (1-31) 発生

18. 緊急時運転開始発生 (1-32) 発生

19. 緊急時運転開始発生 (1-33) 発生

20. 緊急時運転開始発生 (1-34) 発生

21. 緊急時運転開始発生 (1-35) 発生

22. 緊急時運転開始発生 (1-36) 発生

23. 緊急時運転開始発生 (1-37) 発生

24. 緊急時運転開始発生 (1-38) 発生

25. 緊急時運転開始発生 (1-39) 発生

26. 緊急時運転開始発生 (1-40) 発生

27. 緊急時運転開始発生 (1-41) 発生

28. 緊急時運転開始発生 (1-42) 発生

29. 緊急時運転開始発生 (1-43) 発生

30. 緊急時運転開始発生 (1-44) 発生

31. 緊急時運転開始発生 (1-45) 発生

32. 緊急時運転開始発生 (1-46) 発生

33. 緊急時運転開始発生 (1-47) 発生

34. 緊急時運転開始発生 (1-48) 発生

35. 緊急時運転開始発生 (1-49) 発生

36. 緊急時運転開始発生 (1-50) 発生

37. 緊急時運転開始発生 (1-51) 発生

38. 緊急時運転開始発生 (1-52) 発生

39. 緊急時運転開始発生 (1-53) 発生

40. 緊急時運転開始発生 (1-54) 発生

41. 緊急時運転開始発生 (1-55) 発生

42. 緊急時運転開始発生 (1-56) 発生

43. 緊急時運転開始発生 (1-57) 発生

44. 緊急時運転開始発生 (1-58) 発生

45. 緊急時運転開始発生 (1-59) 発生

46. 緊急時運転開始発生 (1-60) 発生

47. 緊急時運転開始発生 (1-61) 発生

48. 緊急時運転開始発生 (1-62) 発生

49. 緊急時運転開始発生 (1-63) 発生

50. 緊急時運転開始発生 (1-64) 発生

51. 緊急時運転開始発生 (1-65) 発生

52. 緊急時運転開始発生 (1-66) 発生

53. 緊急時運転開始発生 (1-67) 発生

54. 緊急時運転開始発生 (1-68) 発生

55. 緊急時運転開始発生 (1-69) 発生

56. 緊急時運転開始発生 (1-70) 発生

57. 緊急時運転開始発生 (1-71) 発生

58. 緊急時運転開始発生 (1-72) 発生

59. 緊急時運転開始発生 (1-73) 発生

60. 緊急時運転開始発生 (1-74) 発生

61. 緊急時運転開始発生 (1-75) 発生

62. 緊急時運転開始発生 (1-76) 発生

63. 緊急時運転開始発生 (1-77) 発生

64. 緊急時運転開始発生 (1-78) 発生

65. 緊急時運転開始発生 (1-79) 発生

66. 緊急時運転開始発生 (1-80) 発生

67. 緊急時運転開始発生 (1-81) 発生

68. 緊急時運転開始発生 (1-82) 発生

69. 緊急時運転開始発生 (1-83) 発生

70. 緊急時運転開始発生 (1-84) 発生

71. 緊急時運転開始発生 (1-85) 発生

72. 緊急時運転開始発生 (1-86) 発生

73. 緊急時運転開始発生 (1-87) 発生

74. 緊急時運転開始発生 (1-88) 発生

75. 緊急時運転開始発生 (1-89) 発生

76. 緊急時運転開始発生 (1-90) 発生

77. 緊急時運転開始発生 (1-91) 発生

78. 緊急時運転開始発生 (1-92) 発生

79. 緊急時運転開始発生 (1-93) 発生

80. 緊急時運転開始発生 (1-94) 発生

81. 緊急時運転開始発生 (1-95) 発生

82. 緊急時運転開始発生 (1-96) 発生

83. 緊急時運転開始発生 (1-97) 発生

84. 緊急時運転開始発生 (1-98) 発生

85. 緊急時運転開始発生 (1-99) 発生

86. 緊急時運転開始発生 (1-100) 発生

操作補足事項

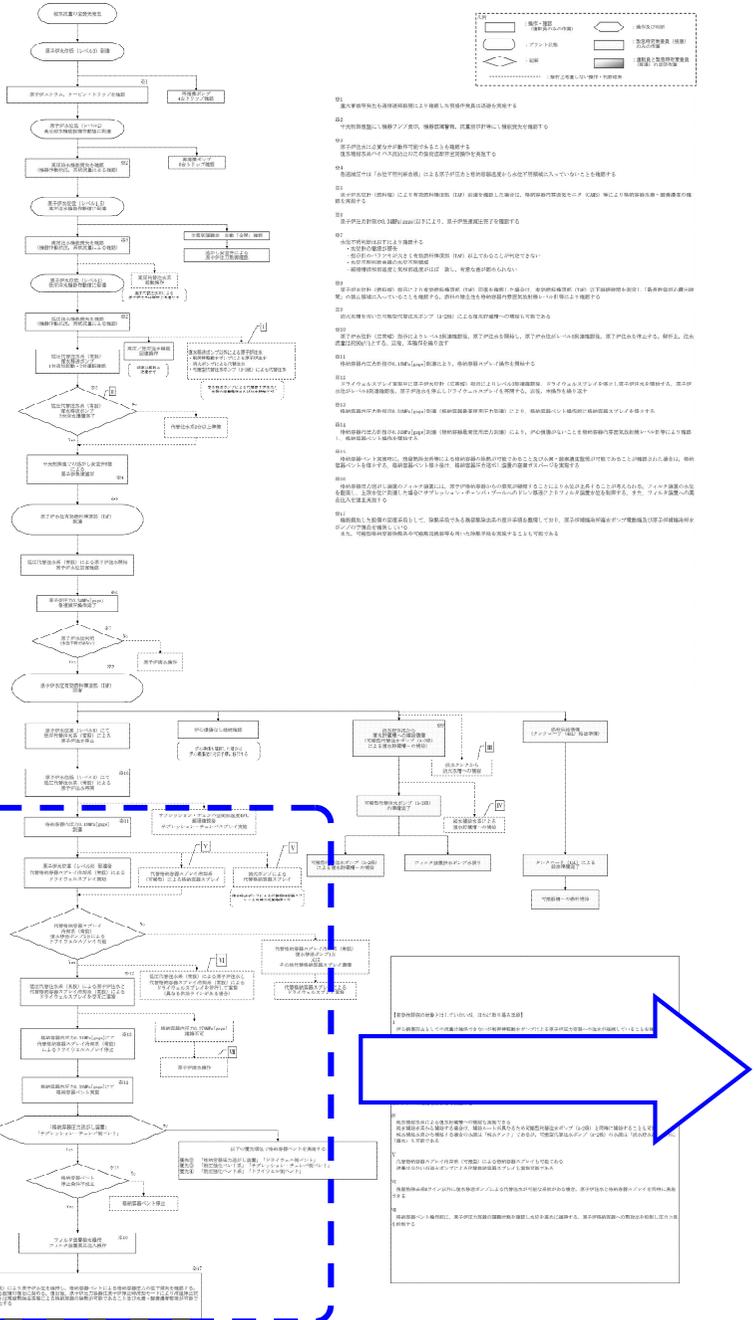
低圧代替注水系 (常設) による原子炉圧力容器への注水準備が完了後、逃がし安全弁 (自動減圧機能付き) を順次開放して、原子炉減圧を実施する。

原子炉減圧後は原子炉圧力とドライウェル空間部温度の相関関係から、原子炉水位計が正常であることを確認する。

原子炉水位計正常を確認後「水位確保」へ移行する。

AM 設備別操作手順書

解析上の対応手順の概要フロー

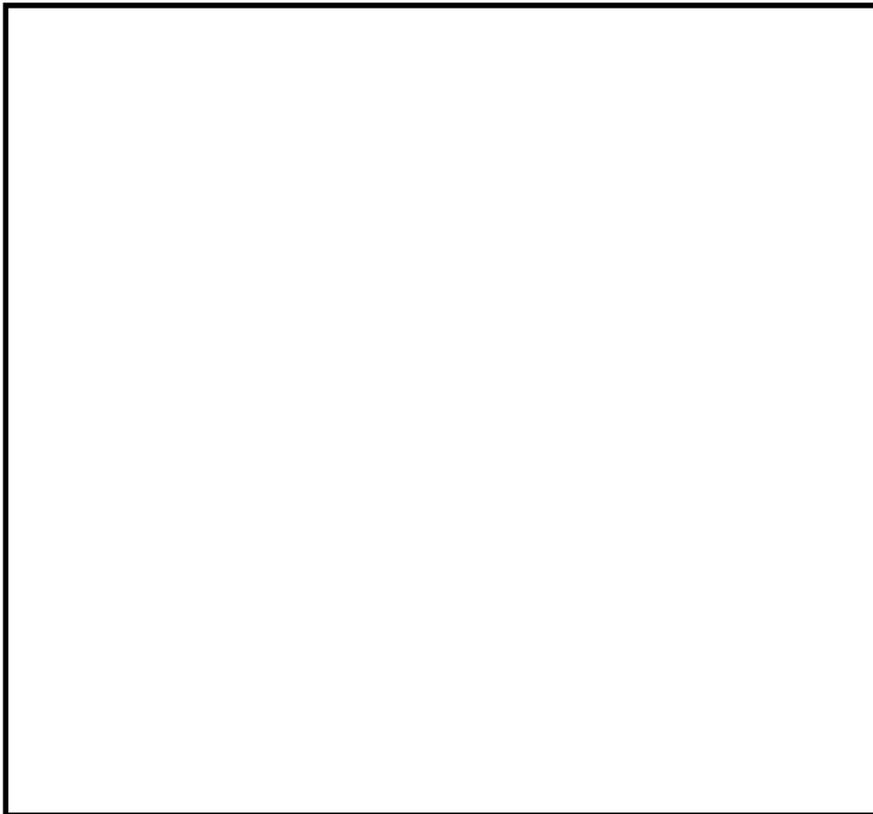


事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (微候ベース) 「EOP」 原子炉制御「スクラム」



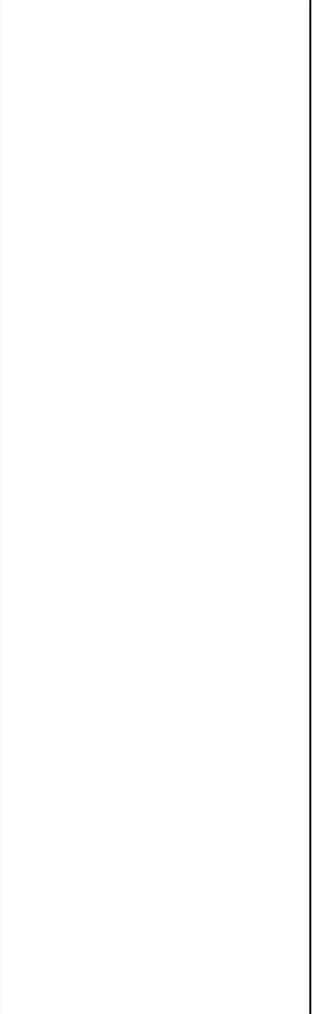
事故時運転操作手順書 (微候ベース) 「EOP」 一次格納容器制御「PCV 圧力制御」



操作補足事項

低圧注水機能喪失により、残留熱除去系の崩壊熱除去機能も喪失していることから、逃がし安全弁からの排気により原子炉格納容器内の圧力が上昇する。

AM 設備別操作手順書



1.2 高圧注水・減圧機能喪失

特徴

運転時の異常な過渡変化又は設計基準事故（LOCAを除く）の発生後、高圧注水機能が喪失し、かつ、原子炉減圧機能（自動減圧機能）が喪失することを想定する。このため、原子炉注水ができず、逃がし安全弁による圧力制御（逃がし弁機能）に伴う蒸気流出により原子炉圧力容器内の保有水量が減少し、原子炉水位が低下することから、緩和措置がとられない場合には、原子炉水位の低下により炉心が露出し、炉心損傷に至る。

基本的な考え方

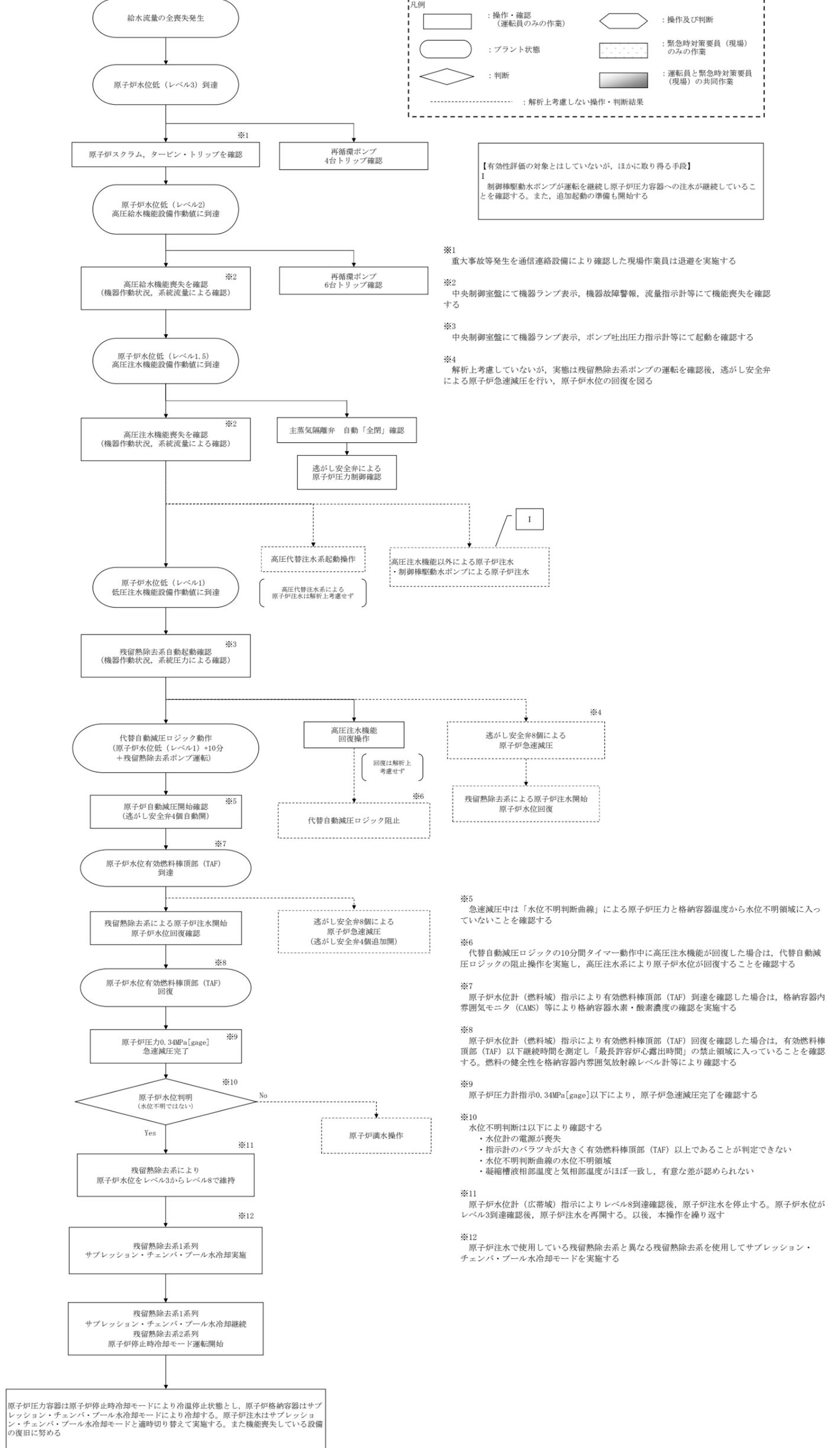
代替自動減圧ロジックを用いた逃がし安全弁による原子炉減圧を行い、原子炉減圧後に残留熱除去系（低圧注水モード）により炉心を冷却することによって炉心損傷の防止を図る。

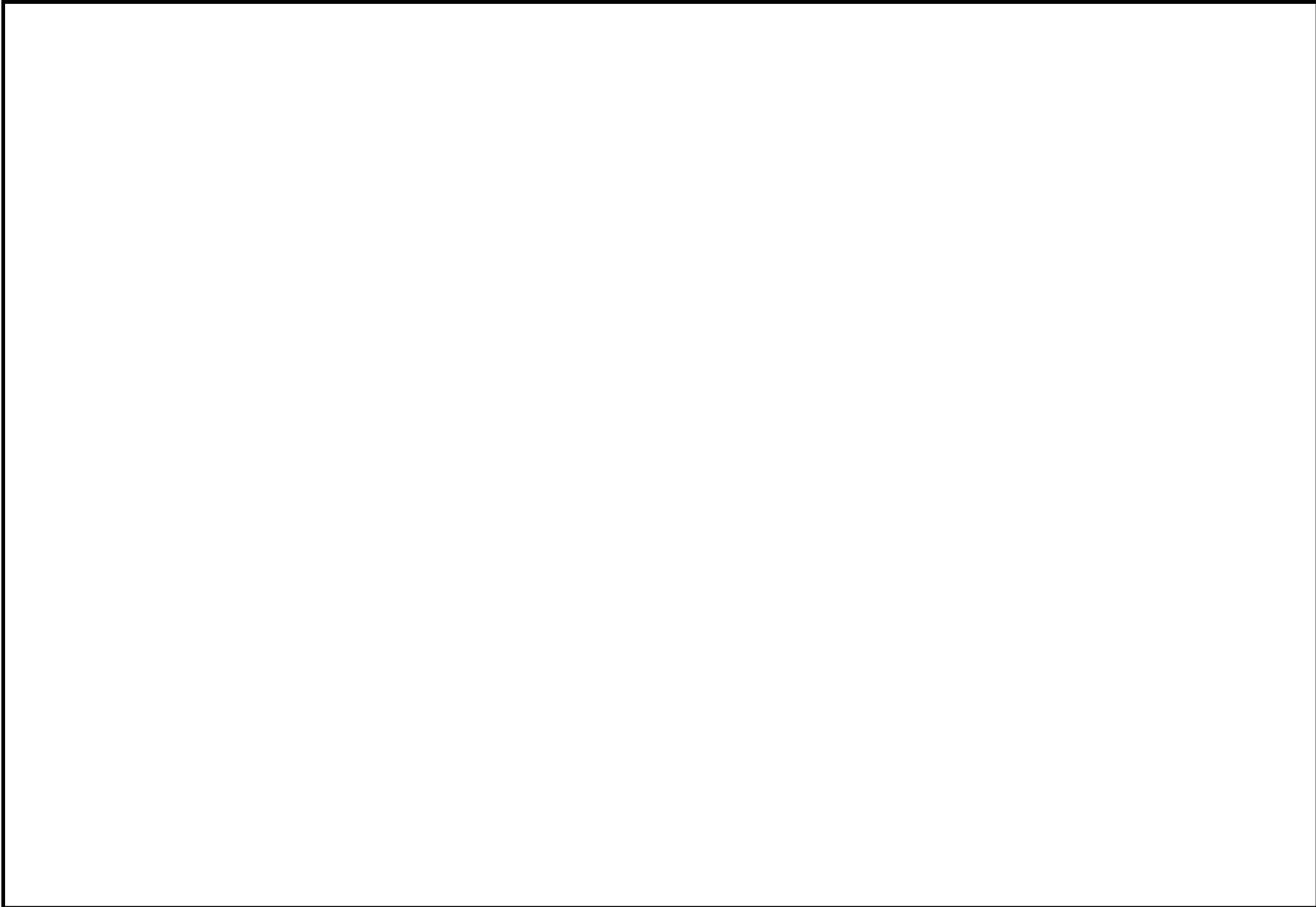
また、残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード及びサブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）による原子炉圧力容器及び原子炉格納容器除熱を実施する。

対応手順の概要

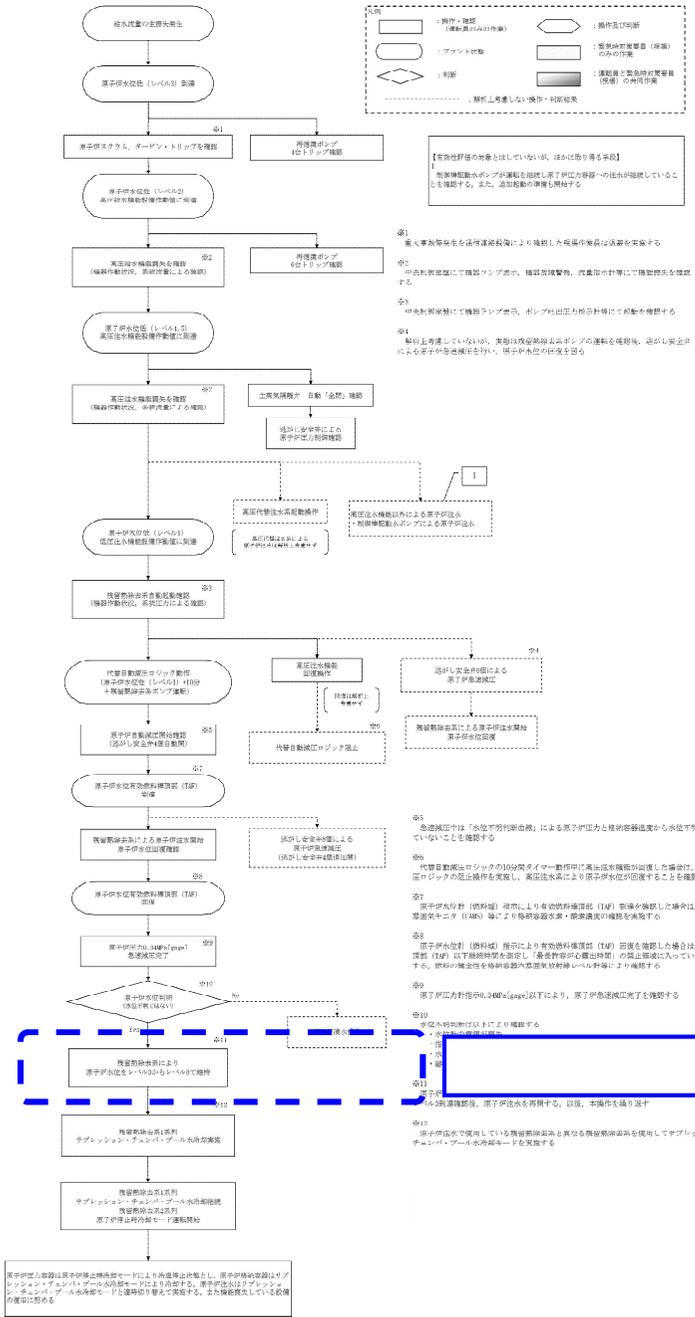
- 原子炉スクラム確認
- 高圧注水機能喪失確認
- 代替自動減圧ロジック動作確認
- 残留熱除去系（低圧注水モード）による原子炉注水
- 残留熱除去系（サブプレッション・チェンバ・プール水冷却モード）運転
- 残留熱除去系（原子炉停止時冷却モード）運転

解析上の対応手順の概要フロー





解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「EOP」 原子炉制御「水位確保」



Blank area for the '事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「EOP」 原子炉制御「水位確保」' procedure.

事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「EOP」 原子炉制御「スクラム」

Blank area for the '事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「EOP」 原子炉制御「スクラム」 procedure.

操作補足事項

低圧注水系により、**原子炉水位をレベル 3～レベル 8 で維持するように制御する。**

AM 設備別操作手順書

Blank area for the 'AM 設備別操作手順書' procedure.

1.3 全交流動力電源喪失

1.3.1 全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG 喪失)

1.3.2 全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG 喪失) +RCIC 失敗

1.3.3 全交流動力電源喪失 (外部電源喪失+DG 喪失) +直流電源喪失

特徴

全交流動力電源喪失後、原子炉隔離時冷却系が自動起動し、設計基準事故対処設備として期待する期間は運転を継続するものの、その期間を超えた後に蓄電池の直流電源供給能力が枯渇して原子炉隔離時冷却系に期待できなくなることを想定する。このため、逃がし安全弁による圧力制御に伴う蒸気流出により原子炉圧力容器内の保有水量が減少し、原子炉水位が低下することから、緩和措置がとられない場合には、原子炉水位の低下により炉心が露出し、炉心損傷に至る。

基本的な考え方

所内蓄電式直流電源設備から電源を給電した原子炉隔離時冷却系による原子炉注水によって事象発生 24 時間後まで炉心を冷却し、常設代替交流電源設備による給電及び残留熱除去系 (低圧注水モード)、低圧代替注水系 (常設) による注水の準備が完了したところで逃がし安全弁の自動開操作により原子炉を減圧し、原子炉減圧後に残留熱除去系 (低圧注水モード) により炉心を冷却することによって炉心損傷の防止を図る。

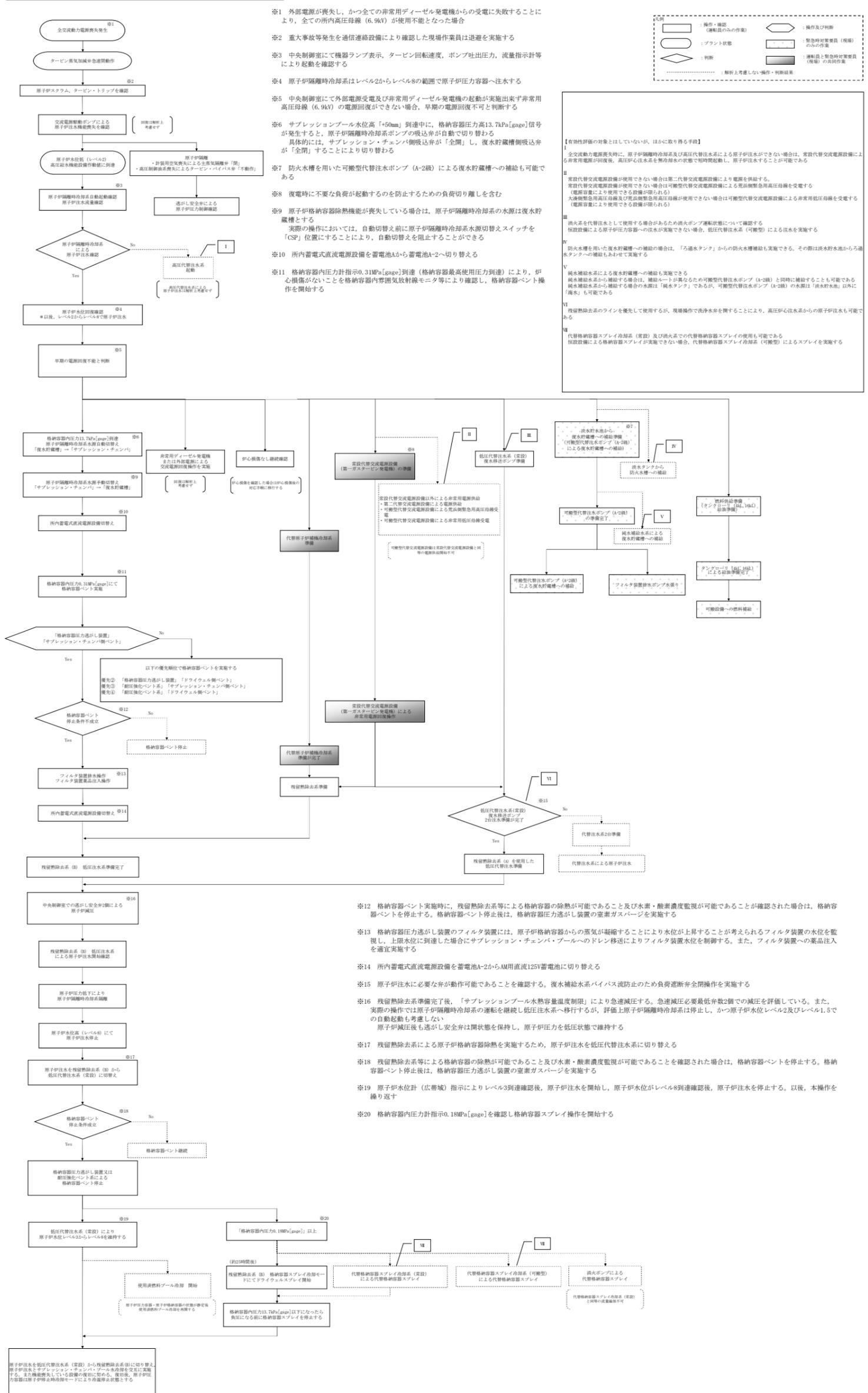
また、代替原子炉補機冷却系を介した残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード)、格納容器圧力逃がし装置及び耐圧強化ペント系による原子炉格納容器除熱を実施する。

対応手順の概要

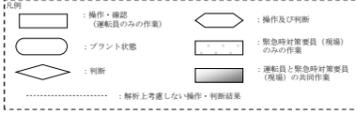
- a. 全交流動力電源喪失及び原子炉スクラム確認
- b. 原子炉隔離時冷却系による原子炉注水
- c. 早期の電源回復不能判断及び対応準備
- d. 直流電源切替
- e. 格納容器圧力逃がし装置等による原子炉格納容器除熱
- f. 逃がし安全弁による原子炉急減圧
- g. 残留熱除去系 (低圧注水モード) による原子炉注水
- h. 残留熱除去系 (格納容器スプレィ冷却モード) による原子炉格納容器除熱
- i. 低圧代替注水系 (常設) による原子炉注水

事故シーケンスグループ「全交流動力電源喪失」に含まれる事故シーケンスのうち、「全交流電源喪失 (外部電源喪失+DG 喪失)+RCIC 失敗」、「全交流電源喪失 (外部電源喪失+DG 喪失)+直流電源喪失」は原子炉圧力容器への注水方法に原子炉隔離時冷却系と高圧代替注水の違いはあるが、手順上同じであることから、「全交流電源喪失 (外部電源喪失+DG 喪失)」を代表して記載する。

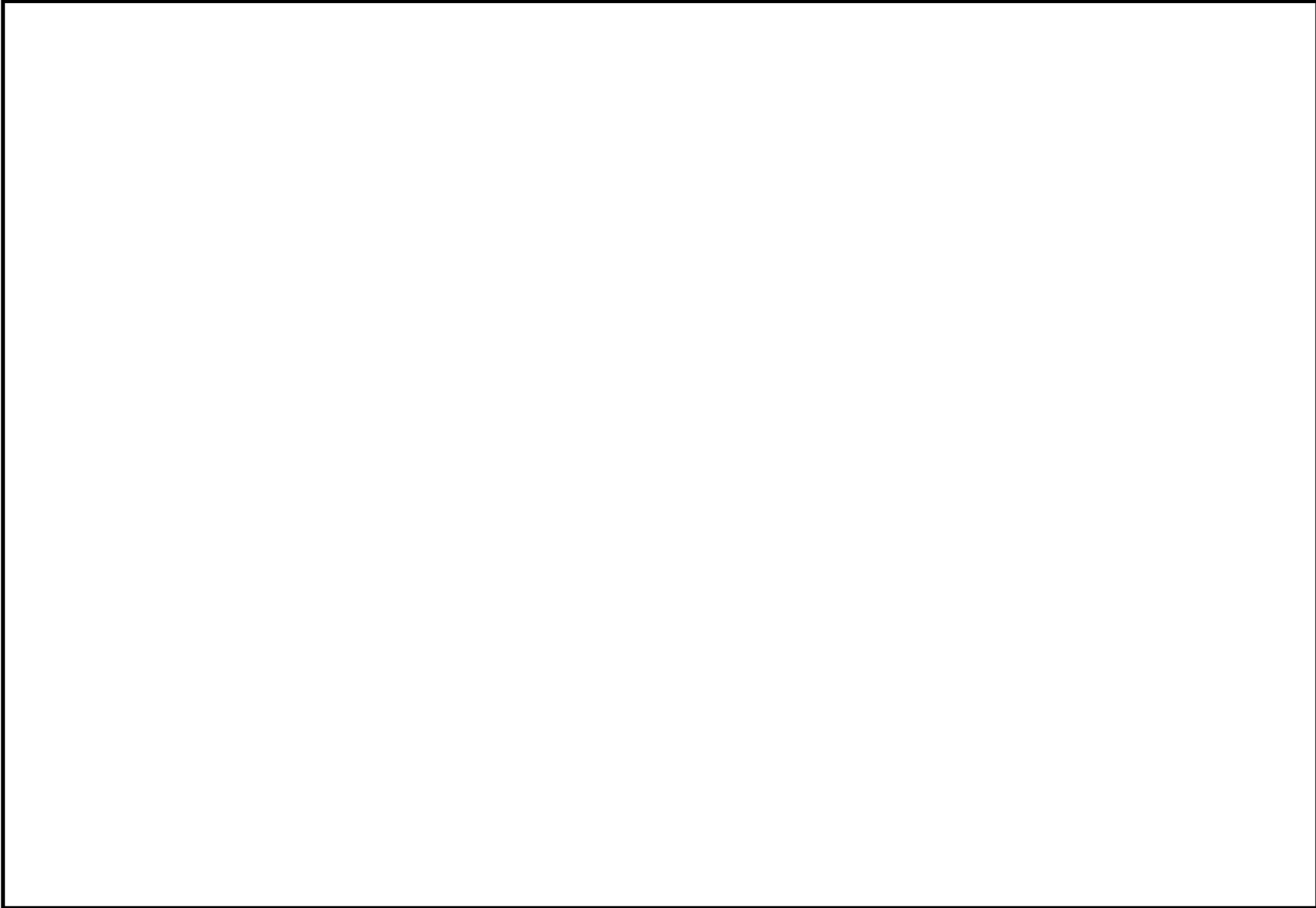
解析上の対応手順の概要フロー



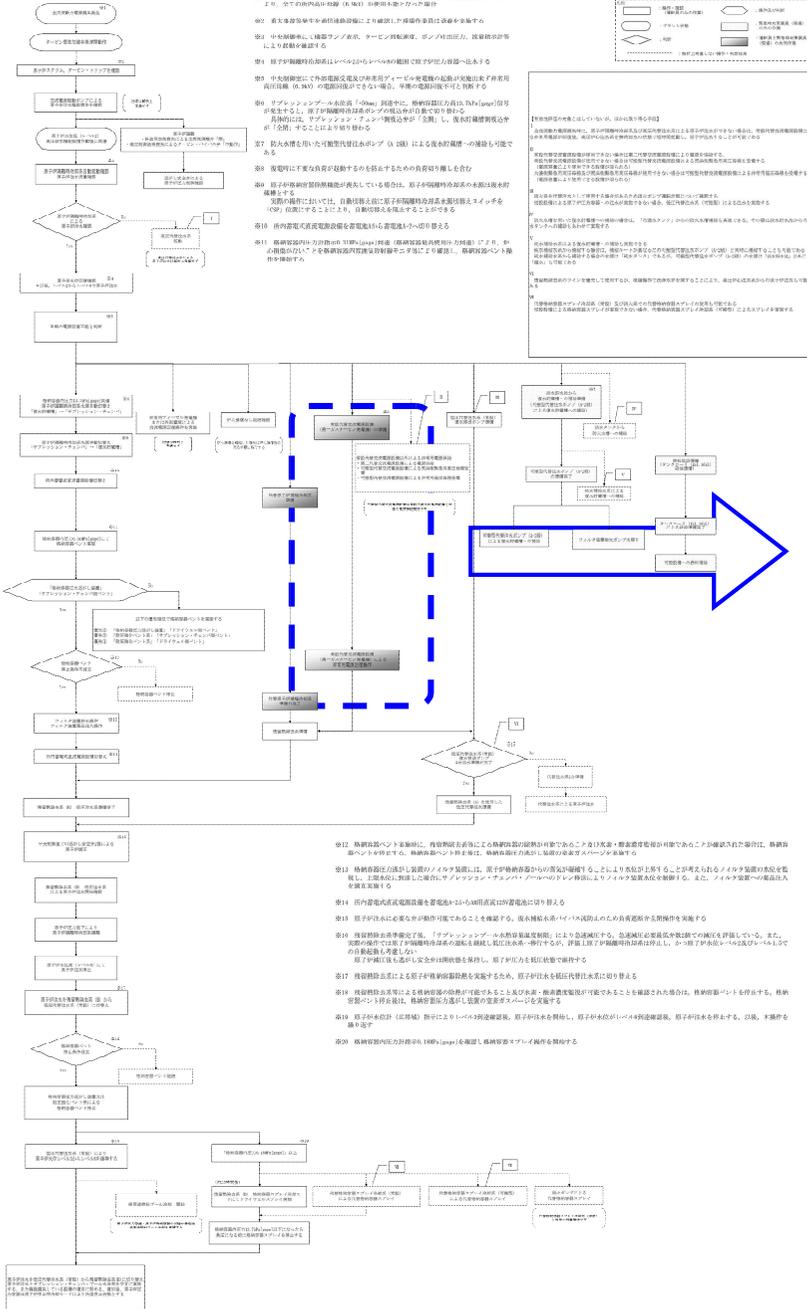
- ※1 外部電源が喪失し、かつ全ての非常用ディーゼル発電機からの受電に失敗することにより、全ての所内高圧母線 (6.9kV) が使用不能となった場合
- ※2 重大事故等発生を通信連絡設備により確認した現場作業員は退避を実施する
- ※3 中央制御室にて機器ランプ表示、タービン回転速度、ポンプ吐出圧力、流量指示等により起動を確認する
- ※4 原子炉隔離時冷却系はレベル2からレベル8の範囲で原子炉圧力容器へ注水する
- ※5 中央制御室にて外部電源受電及び非常用ディーゼル発電機の起動が実施出来ず非常用高圧母線 (6.9kV) の電源回復ができない場合、早期の電源回復不可と判断する
- ※6 サプレッションプールの水位高「50mm」到達中に、格納容器圧力高13.7kPa[gage]信号が発生すると、原子炉隔離時冷却系の吸込弁が自動で切り替わる
具体的には、サプレッション・チェンバール側吸込弁が「全開」し、復水貯蔵槽側吸込弁が「全閉」することにより切り替わる
- ※7 防火水槽を用いた可搬型代替注水ポンプ (A-2級) による復水貯蔵槽への補給も可能である
- ※8 復電時に不要な負荷が起動するのを防止するための負荷切り離しを含む
- ※9 原子炉格納容器除熱機能が喪失している場合は、原子炉隔離時冷却系の水源は復水貯蔵槽とする
実際の操作においては、自動切替前に原子炉隔離時冷却系水切替スイッチを「CSP」位置にすることにより、自動切替を阻止することができる
- ※10 所内蓄電式直流電源設備を蓄電池Aから蓄電池A-2へ切り替える
- ※11 格納容器内圧力計指示0.31MPa[gage]到達 (格納容器最高使用圧力到達) により、炉心損傷がないことを格納容器内空気放射線モニタ等により確認し、格納容器ペント操作を開始する



【有効性評価の対象としていないが、ほかに取り得る手段】
I 全交流動力電源喪失時に、原子炉隔離時冷却系及び高圧代替注水系による原子炉注水ができない場合は、常設代替交流電源設備による非常用電源が回復後、高圧代替注水系を無高圧母線状態で長時間起動し、原子炉注水することが可能である
II 常設代替交流電源設備が使用できない場合は第二代替交流電源設備により電源を供給する。
常設代替交流電源設備が使用できない場合は可搬型代替交流電源設備による非常用高圧母線を受電する
(電源容量により使用できる設備に限られる)
III 大規模緊急高圧母線及び非常用緊急高圧母線が使用できない場合は可搬型代替交流電源設備による非常用低圧母線を受電する
(電源容量により使用できる設備に限られる)
IV 高圧水を代替注水として使用する場合は高圧ポンプ運転状態について確認する
低圧設備による原子炉圧力容器への注水が実施できない場合、低圧代替注水系 (可搬型) による注水を実施する
V 防火水槽を用いた復水貯蔵槽への補給の場合は、「ろ過タンク」からの防火水槽補給も実施できる。その際は防火水槽からろ過タンクへの補給もあわせて実施する
VI 純水補給系による復水貯蔵槽への補給も実施できる
純水補給系から補給する場合は、補給ヘッドが異なるため可搬型代替注水ポンプ (A-2級) と同時に補給することも可能である
純水補給系から補給する場合の水源は「純水タンク」であるが、可搬型代替注水ポンプ (A-2級) の水源は「復水貯蔵槽」以外に「純水」も可能である
VII 残留熱除去系のラインを優先して使用するが、現場操作で洗浄弁を開することにより、高圧炉心注水系からの原子炉注水も可能である
VIII 代替格納容器スプレィ冷却系 (常設) 及び高圧水の代替格納容器スプレィの使用も可能である
低圧設備による格納容器スプレィが実施できない場合、代替格納容器スプレィ冷却系 (可搬型) によるスプレィを実施する



解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (徴候ベース) 「EOP」 「交流/直流電源供給回復」



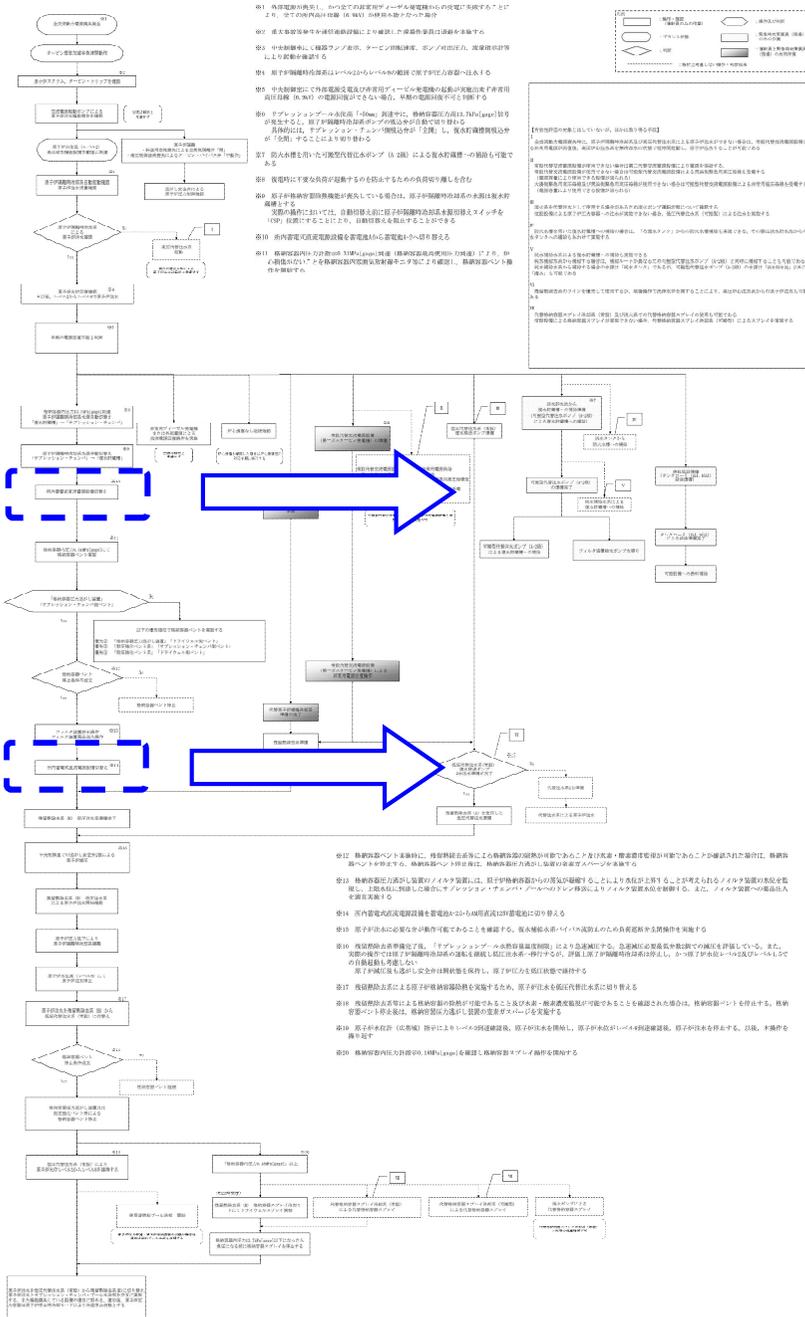
操作補足事項

全交流動力電源喪失の対応として、第一ガスタービン発電機を起動し、D系及びC系の非常用母線を受電する。

AM 設備別操作手順書

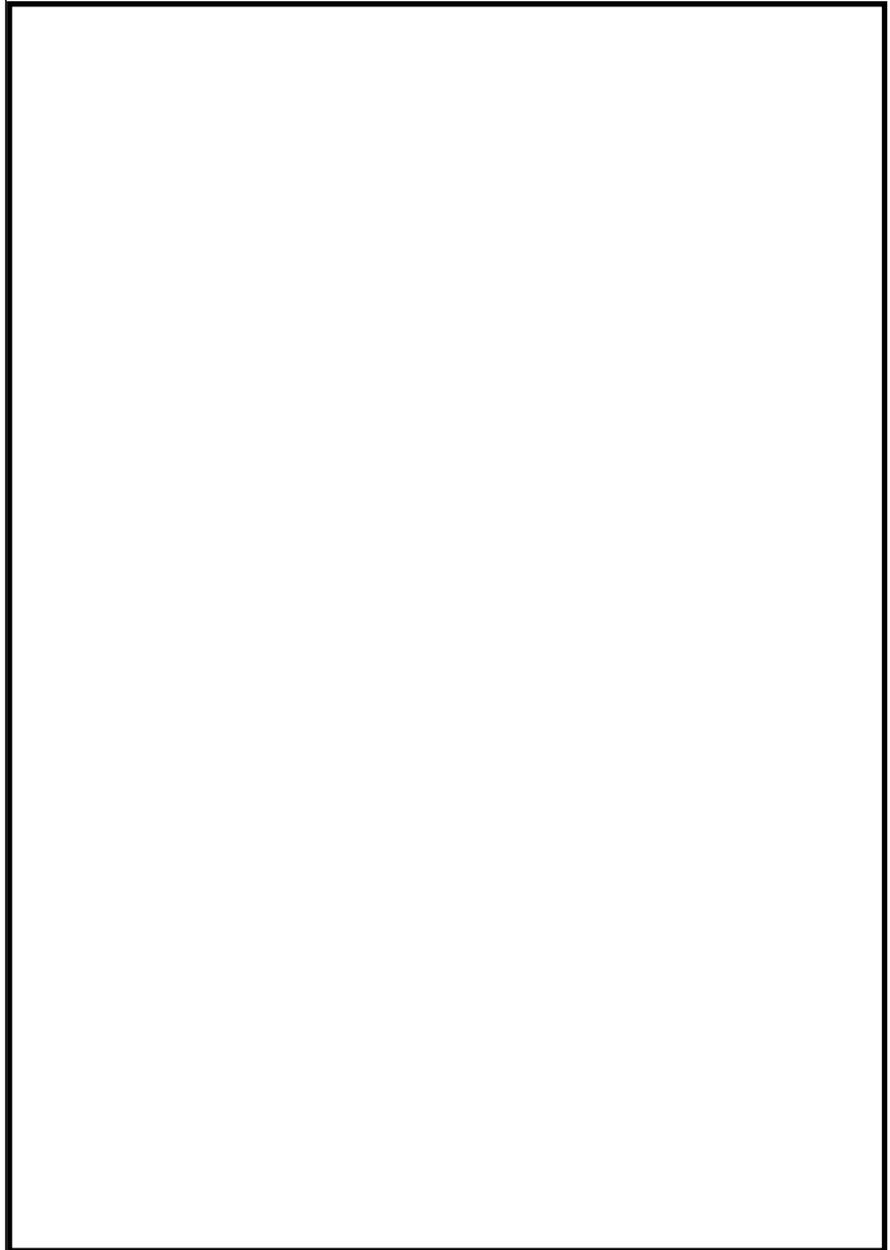
- 1-2 「電源確保戦略 (給電)」
 - ・第一ガスタービン発電機起動
- 1-3 「電源確保戦略 (受電)」
 - ・M/C7C・7D 受電

解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書（微候ベース）「EOP」 「交流/直流電源供給回復」

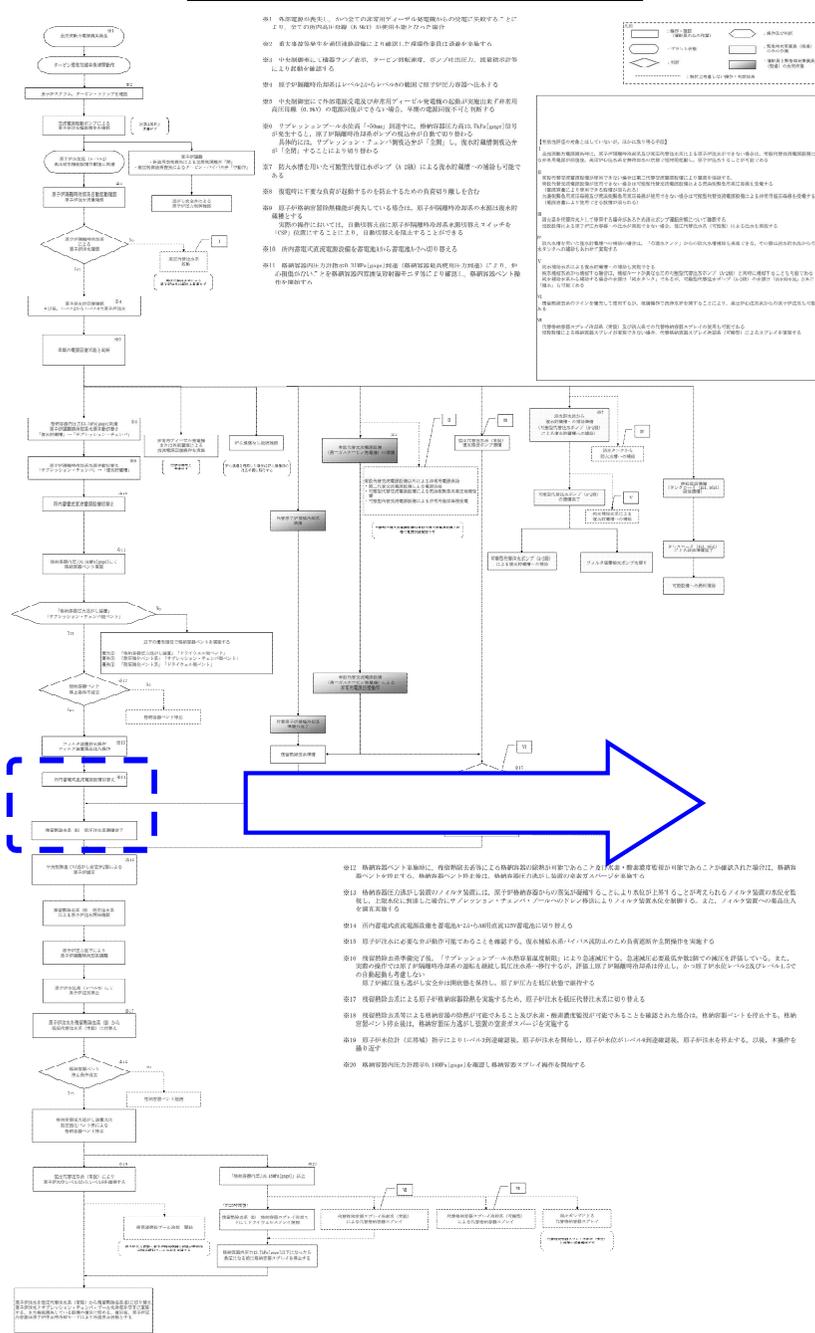


操作補足事項

非常用ディーゼル発電機 (A) の起動に失敗していることから、原子炉隔離時冷却系で使用している直流電源の枯渇を防止するため、所内蓄電池式直流電源設備の切替えを行い、延命措置を実施する。

AM 設備別操作手順書

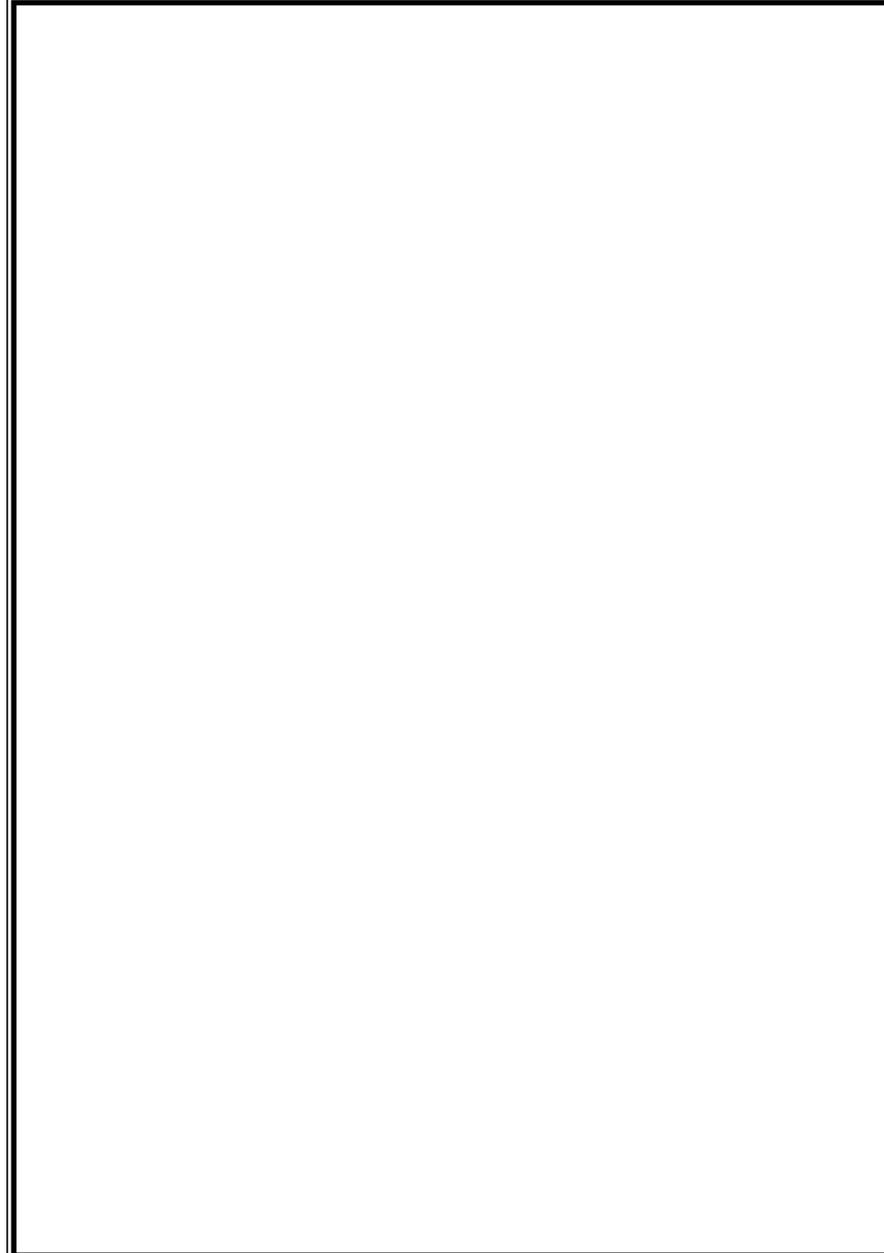
解析上の対応手順の概要フロー



- 081 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 082 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 083 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 084 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 085 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 086 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 087 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 088 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 089 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 090 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 091 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 092 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 093 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 094 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 095 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 096 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 097 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 098 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 099 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 100 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。

事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (微候ベース) 「EOP」 一次格納容器制御 「S/P 温度制御」



- 【微候ベース】
- 081 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 082 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 083 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 084 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 085 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 086 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 087 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 088 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 089 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 090 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 091 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 092 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 093 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 094 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 095 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 096 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 097 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 098 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 099 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。
- 100 炉内温度が上昇し、かつ炉内温度が「炉内温度監視」の定値に上昇する。

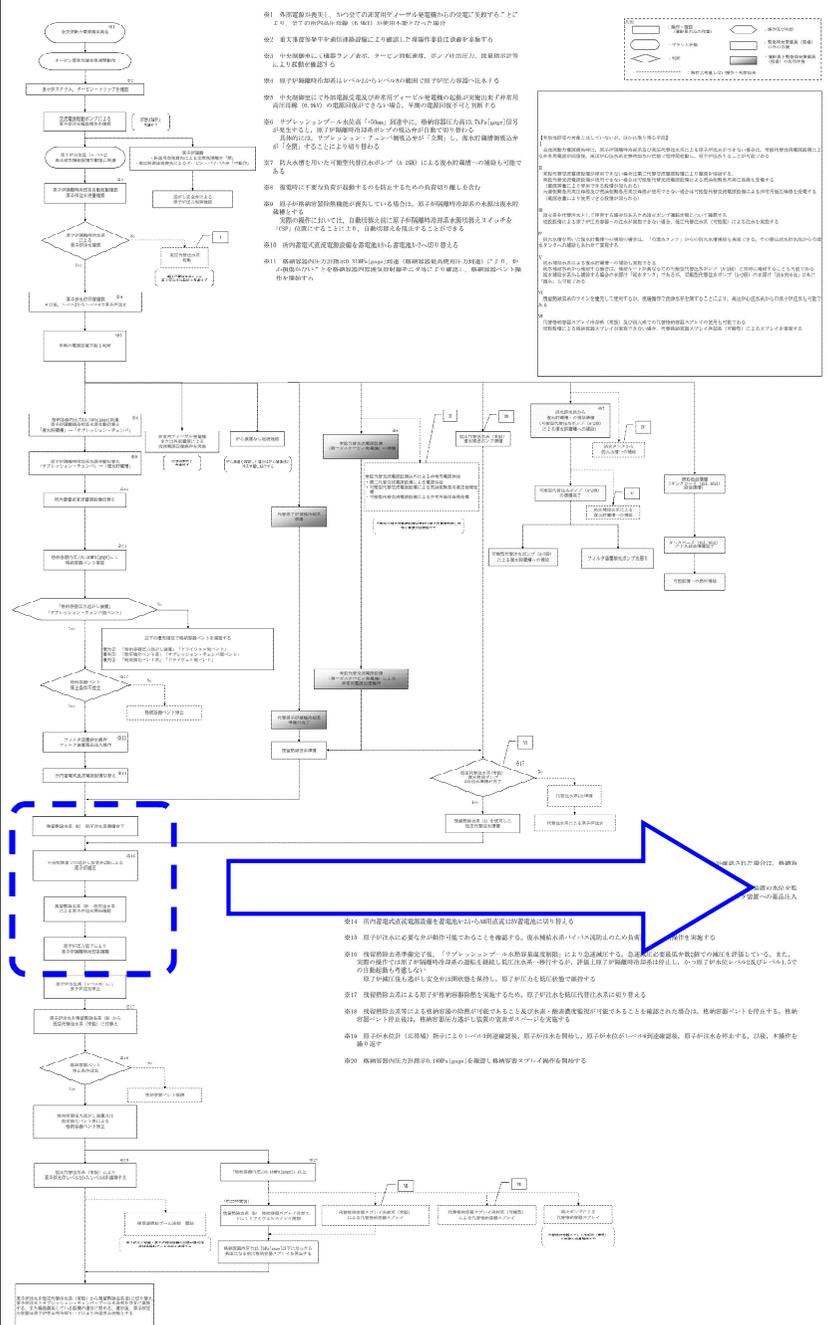
操作補足事項

原子炉格納容器内の温度は上昇するが、全交流動力電源喪失により、原子炉格納容器内へのスプレイ不可。

サプレッション・チェンバ・プール水の温度がサプレッション・チェンバ・プール水熱容量制限値以上になったら、「急速減圧」に移行する。

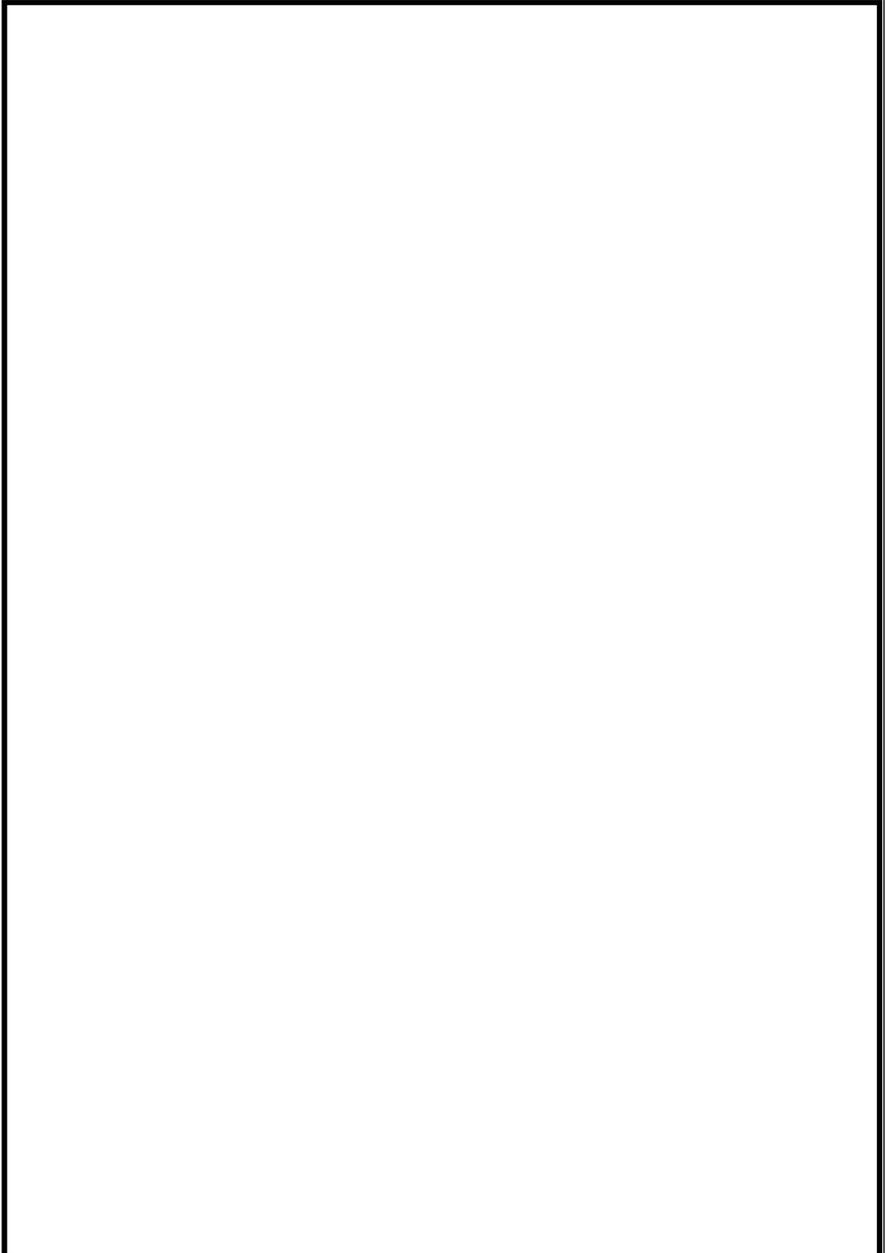
AM 設備別操作手順書

解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (微候ベース) 「EOP」 不測事態「急速減圧」



操作補足事項

第一ガスタービン発電機からの交流電源供給を確認後、残留熱除去系（低圧注水モード）による原子炉圧力容器への注水準備が完了次第、逃がし安全弁（自動減圧機能付き）を順次開放して、原子炉減圧を実施する。

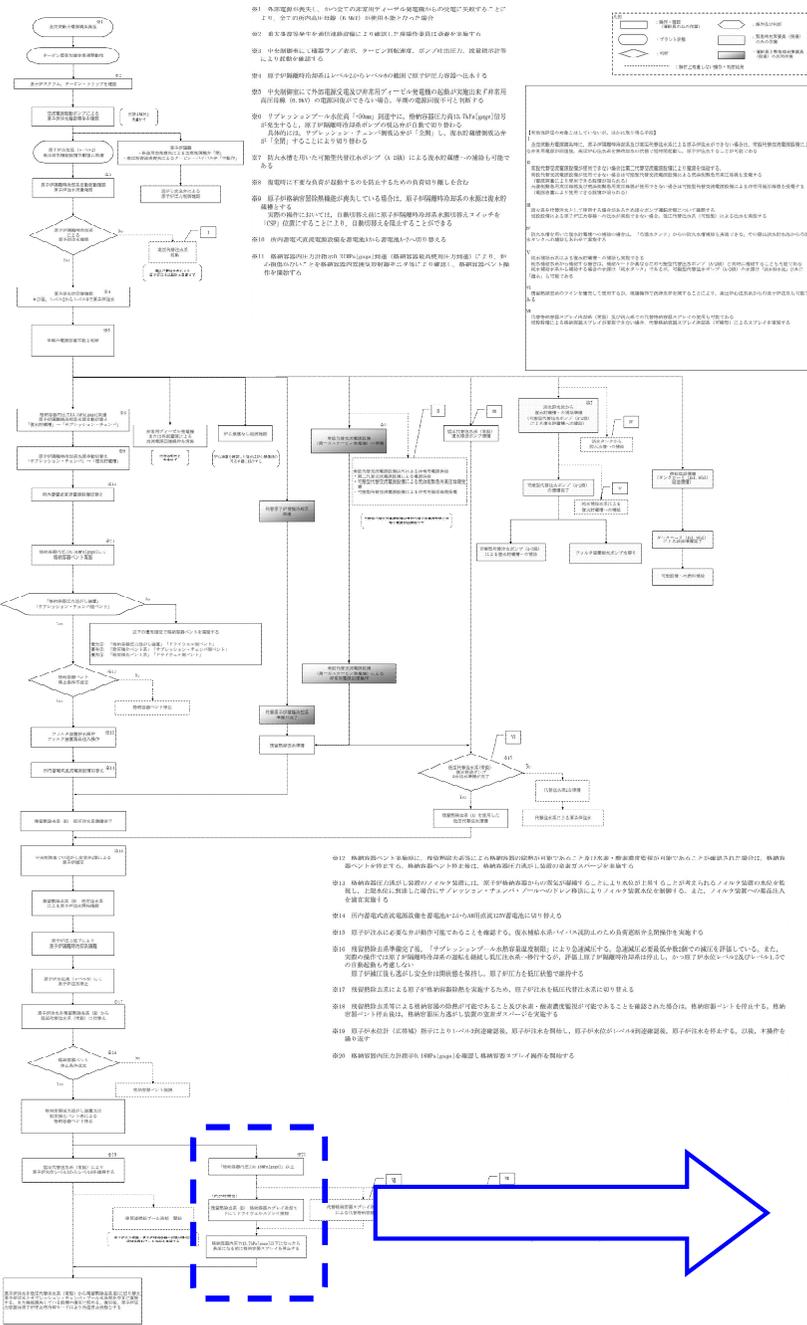
原子炉減圧後は原子炉圧力とドライウェル空間部温度の相関関係から、原子炉水位計が正常であることを確認し、残留熱除去系（低圧注水モード）による原子炉圧力容器への注水が開始され、原子炉水位が上昇することを確認する。

原子炉水位計正常を確認後「PCV 圧力制御」へ移行する。

AM 設備別操作手順書

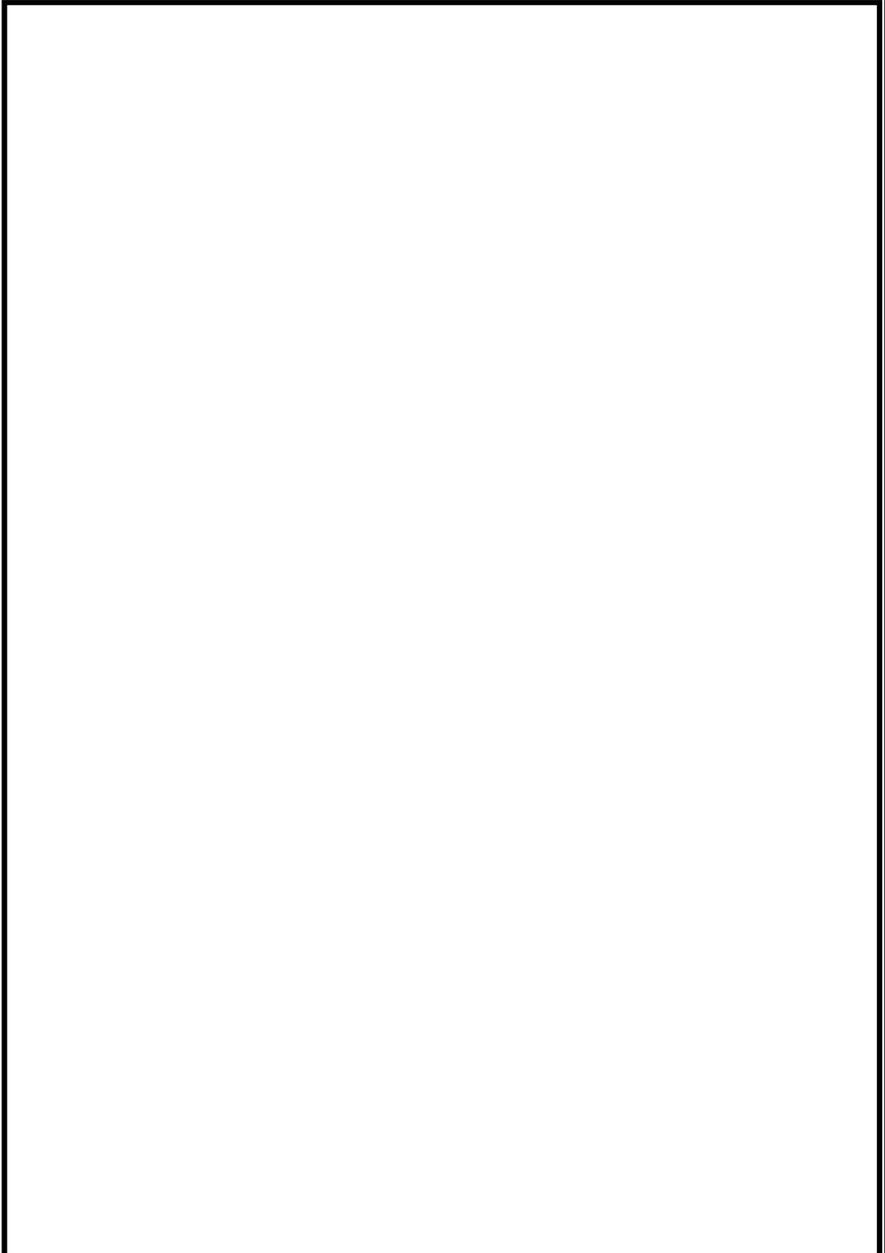
- 3 「原子炉注水戦略」
 - ・ RHR (B) による原子炉注水
 - ・ MUWC による原子炉注水
- 「代替除熱戦略」
- ・ 代替 Hx による補機冷却水 (B) 確保

解析上の対応手順の概要フロー



事故時運転操作手順書

事故時運転操作手順書 (微候ベース) 「EOP」 一次格納容器制御「PCV 圧力制御」



操作補足事項

原子炉水位レベル 8 到達後、残留熱除去系 (低圧注水モード) から低圧代替注水系 (常設) に切り替えるとともに、原子炉水位をレベル 3~レベル 8 で維持するように制御する。

格納容器圧力逃がし装置による格納容器ベント終了後、再度、原子炉格納容器内の圧力が 180kPa [gage] に到達した場合、残留熱除去系 (格納容器スプレイ冷却モード) により原子炉格納容器内へのスプレイを実施する。

AM 設備別操作手順書

